株式会社 中野木型製作所

企画力 短納期 小ロットOK 量産OK 試作OK 連携力

代表取締役
鈴木 美奈子さん

商品の心（ハート）を型にします

お菓子やお酒を入れる箱などの“二次製品”を作る会社として、エンドユーザーが商品として扱う“一次製品”のパッケージ、販売促進用の POP や紙製の什器などの企画から設計、紙製品の量産まで対応させていただいております。大切な商品を心をこめたパッケージで包みたいという気持ちにお応えしたく、創業以来「商品の心(ハート）を型にします」の精神で社業に取り組んでいます。アットホームな会社の雰囲気はお客様も感じていただけているのではないかと思います。是非 開発した商品、製品の箱など、紙製品のご相談は弊社までお寄せ下さい。

■**主な事業内容**
紙器用抜型製作、抜き加工、パッケージ・什器等の企画・設計・制作

■**主な取引先**（納入先）
日用品（衛生薬品・防虫剤）メーカー、自動車部品メーカー、医療関係、文具関係メーカー

住　所／〒570－0032
大阪府守口市菊水通3－11－9
TEL／06－6991－0776
FAX／06－6991－0882
創　業／昭和48年3月
設　立／昭和50年4月
資本金／1,000万円
従業員／6名

http://e-nakanokigata.cc/

紙器の企画・提案で顧客の要望を形に

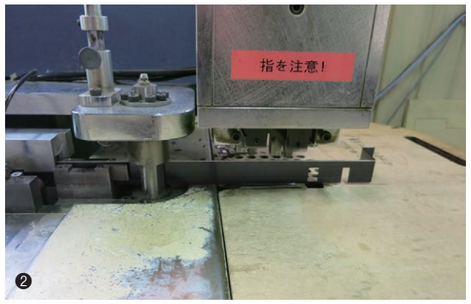
事業内容と沿革

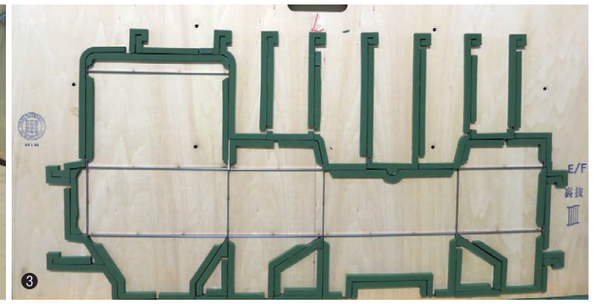
木型製造や紙製品で付加価値向上

段ボールをはじめとする紙器用の木型で、ベニヤ板に溝を彫って刃を入れるトムソン抜き型の製造がメイン。トムソン抜き型を使った打ち抜き加工により、菓子や化粧品などの商品を入れる箱や家電量販店などに置く販売促進用の什器も製作する。型の刃物はメーカーと共同で開発しており、強いこだわりを持つ。

昭和48年に創業し、昭和50年には法人を設立して経営を拡大してきた。平成8年にはベニヤ板の切断に用いるレーザー加工機の導入に伴い守口市内で工場を移転、拡張した。その後打ち抜き加工機を導入し、小ロット単位で箱の製作も手がけ始めた。平成15年には新型の刃の曲げ機を導入するなど、設備投資も必要に応じて進めてきた。

納入先の70％は印刷会社や紙器メーカーなどで、近年はエンドユーザーにも営業活動の幅を広げている。商品を届ける側の立場に立った提案がモットーだ。鈴木美奈子社長は「商品をより良いものに見せ、付加価値を高める」と方針を示す。





❶木型用のベニヤ板に刃物を打ち込む
❷刃物は専用の自動機で折り曲げる
❸完成した木型
❹組み立てた箱の見本
❺製作した紙製品の数々

強み

木型を“売らない”設計で低コストを実現

顧客が箱や什器といった紙製品を量産する際の条件に合わせ、生産にあたっての要望やコスト面を考慮したうえで設計に取り組み、製造や流通の過程、完成段階まで想定して中に入れる商品に適した材質や形を提案できる。

多数の部材で構成する什器などの場合は、印刷機や紙のサイズに合わせて木型を製造するが、すべての部材に対して型をつくると多大なコストがかかってしまい顧客の負担が大きくなる。そこで、部材を共通化して型の製造個数を少なくしたり裁断機などを使って型そのものを不要にしたりすることでコストの低減を可能にしている。こうした手法により、納入先の顧客が案件を受注しやすくしている。できるだけ木型を“売らない”設計の提案は、直接の納入先だけでなくエンドユーザーからも高い評価を受けている。

自社内での対応にとどまらず、印刷会社や加工会社といった協力先とのネットワークを駆使して顧客のさまざまな要望に応えられる体制も強みだ。

取り組み

ホームページの刷新でエンドユーザーを取り込む

現在、重点を置いているのが新たな顧客層の開拓だ。従来の納入先に加えてエンドユーザーからの受注増加を目指し、平成 28 年には経済産業省の「小規模事業者持続化補助金」を利用して自社のホームページを刷新した。初めての顧客でも理解しやすいように専門用語を使わない説明を心がけ、一般的な製造業のウェブサイトとは一線を画している。刷新後に引き合いのあったメーカーからは箱に入れる商品をつくってほしいという依頼を受けるなど、これまでにない案件も舞い込んでいる。

同年９月からは、包装に関する総合学習の場として「大阪パッケージアカデミー」を開催。平成29年3月まで12回から13回にわたり、13名の受講者が4名の講師から設計やパッケージのデザインなどについて学び、貼り箱のワークショップも実施した。平成30年の開催も決まった。受講者にとってはスキルを高める機会になり、同社にとっては社外でさまざまなつながりができるとして、今後の展開に大きな期待を寄せる。

今後の展開

顧客層広げ、自社にも変革を

エンドユーザーへの働きかけにより、木型だけでなく箱をより多く製造できるようになるのが目標だ。顧客層を拡大し、印刷会社や紙器メーカーなどの得意先からの請け負い中心という仕事のスタイルから脱却することで自社のポジションを上げていき、社員の生活の質も高めたいという。設計者や職人にものづくりに携わる誇りや喜びを感じてもらえるような会社づくりにも取り組む。

生産設備は老朽化が進んでおり、更新を進めるとともに効率化を主眼とした投資も順次実施していく。平成２８年２月にはゴムの切断機を導入。トムソン抜き型を用いた打ち抜き加工の際に、紙が型の刃物に食い込むのを防ぐため、刃に沿って貼り付けるゴムを形状に合わせて切る作業を人手から機械に置き換えた。その結果、作業時間の短縮につながったうえ、切断後の仕上がりも良くなった。さらに今後数年以内には、補助金を活用して刃の自動曲げ機を導入し、曲げ作業の後工程を含めて人手を不要にしていく方針だ。